

(別添2)

【うるま市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

令和6年4月から同年10月までの間、校内ネットワークの入口にあるルーターのトラフィック流量をモニタリングした結果、トラフィックのピーク値が「当面の推奨帯域（学校のネットワーク改善ガイドブック（令和6年4月文部科学省））」を満たす等の学校が12校あり、総学校に占める割合は46%となっている。

また、児童生徒を対象に行った「ネットワーク体感アンケート（令和6年6月実施）」では「学校のネットワークが繋がりにくく授業等に支障がある」と回答した児童生徒の割合が、平均5%（最大値15%、最小値1%）となっている。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

各学校のネットワークは、同一の構成（機器や材料、設定等）で環境が構築されており、推奨帯域を満たす等の学校が約半数あることから校内のネットワークに課題はないものと思料している。

一方、通信回線が1GBベストエフォートの契約回線となっているため、学校所在地域における回線利用率に大きく影響すること、また、ISPのサービスが動的IPによる契約となっているため、必要となるセッション数不足などが課題となっていた。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

日常的なネットワーク監視及び令和6年度に実施したネットワークアセスメント（トラフィック流量モニタリング並びにネットワーク体感アンケート）の結果を踏まえ、今後、ネットワークの改善に向けて検討を進める。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

通信回線契約について、令和6年度に実施したネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年度以降、通信契約の変更や引き込み回線を増やすことなどについて検討を行っており、令和8年度以降も引き続き、必要なネットワーク速度の確保に取り組む。

また、セッション数については、令和6年度に津堅小中学校を除く25校を対象に、プロバイダ契約変更を行い、12,800セッションから65,000セッションにセッション数の増強を実施した。